

基礎を固めるクラス 偏差値のめやす 40～50程度 主な学年のめやす: 高1後半～高2

この紙のゴール: 300～450語の初見の論説文を、段落の働きを追いながら読み、要点を自分のことばで書く / 目安15分(本文+設問)。本文はこの教材のための書き下ろし(初見用)です。

[1] Look at two restaurants on the same street. One has a line outside. The other one is empty. Which do you choose? Most people choose the one with the line. We do the same thing online. Before we buy something, we look at the stars other people gave it. Nobody told us to do this. It happens on its own.

[2] This is not a silly habit. It is a smart one. You cannot test everything yourself, and you do not have the time. Other people have already tried these things, and their choices carry information. Using that information is a good way to save time.

[3] But there is a problem. What if those people were doing the same thing as you? Perhaps only the first two or three really tasted the food. Everyone after them just saw the line and joined it. If that is true, the line is long because the line is long.

[4] The same thing can happen with stars. When the first few scores are high, later readers may feel that the thing must be good, and they may give a high score too. In the end, many people say that everyone likes it, but almost nobody has actually checked. Nothing dishonest has happened here.

[5] So a line does tell you something, but not what you think. It tells you how many people decided to stand there. It does not tell you how good the food is. These are two different facts, and they are easy to mix up.

[6] Here is one thing you can do. When you try something, say what you actually noticed, not what other people said about it. It does not have to be a long sentence. One honest sentence puts new information back into the line. Without sentences like that, the line only repeats itself.

〔語注〕 silly=ばかげた carry information=情報を持っている score=評価・点数 mix up=混同する

本文には自由に書き込んでください。つなぎの語(But / Yet / however)に印をつけ、段落の左に「認める／切り返す／例／主張／提案」とメモすると、大問1がそのまま解けます。

みんなが見ているものを、だれも見っていない 設問

年 組 番 名前 _____

本文（1枚目）を見ながら答えてください。

大問1 段落の働き それぞれの段落が、この文章の中でどんな働きをしているかを選ぼう。

(1) [2]段落の働きとして、いちばん合うものは？ **思考・判断・表現** 答え（ ）

3点

- ア [1]段落の具体例を、くわしく挙げている
- イ 筆者の主張を、はじめて言い切っている
- ウ 反対の立場にも言い分があることを、いったん認めている
- エ 読者にしてほしいことを、提案している

(2) 筆者が「でも、そうではない」と切り返しはじめるのは、どの段落の最初の文？ **思考・判断・表現** 答え 3点
（ ）

- ア [2]段落
- イ [3]段落
- ウ [4]段落
- エ [5]段落

大問2 内容の読み取り 本文の内容に合うものを選ぼう。

(1) 他人の選択を見ることについて、筆者はどう述べているか。 **知識・技能** 答え（ ）

3点

- ア 時間を節約できる、賢いやり方だ
- イ はずかしいので、やめたほうがよい
- ウ 店にとってだけ都合がよい
- エ ネットでだけ通用するやり方だ

(2) 「行列が長いのは、行列が長いからだ」とはどういうことか。 **思考・判断・表現** 答え（ ）

3点

- ア 店の料理がおいしいので人が集まった、ということ
- イ 最初の数人以外は、行列を見て並んだだけだ、ということ
- ウ 行列は時間がたつと自然に長くなる、ということ
- エ 長い行列は、店が客をわざと待たせている、ということ

(3) 行列から分かることは何か。 **知識・技能** 答え（ ）

3点

- ア 料理のおいしさ
- イ 店で働く人の数
- ウ そこに並ぶことに決めた人の数
- エ その店ができてからの年数

大問3 書いて答える 本文をもとに、日本語で書こう。

(1) 筆者が読者にすすめていることを、20字以内で書きなさい。 **思考・判断・表現**

5点

みんなが見ているものを、だれも見っていない（基礎） | 解答と採点

解答 選択問題

大問1 段落の働き		
(1)	ウ	This is not a silly habit. It is a smart one. で「並ぶのは賢い」といったん認めている。筆者は行列を否定していない—ここを否定と読むと[5]の主張まで反転する。エは[6]段落。
(2)	イ	But there is a problem. が転換点。譲歩（[2]）→転換（[3]冒頭）→具体例（[4]）→主張（[5]）→提案（[6]）の型。
大問2 内容の読み取り		
(1)	ア	[2]段落 It is a smart one. / a good way to save time.
(2)	イ	[3]段落 Everyone after them just saw the line and joined it. の言いかえ。
(3)	ウ	[5]段落 It tells you how many people decided to stand there. アは直後の文で明確に否定されている。

記述の採点 模範解答と部分点の刻み

刻みは答案を見る前に配点を決めておくための表です。採点しながら基準を作ると、最初の10枚と最後の10枚で線が動きます。

大問3(1) 筆者が読者にすすめていることを、20字以内で書きなさい。 5点

自分が気づいたことを言う。

配点	その点を与える条件
3点	「自分が気づいた・確かめた」にあたる内容がある
2点	「言う・書く」など、外に出すことに触れている

「行列に並ばない」と書いた答案は0点。筆者は並ぶこと自体を否定していない（[2]で認めている）—ここは大問1(1)と同じ力を測っている。



みんなが見ているものを、だれも見っていない（基礎） | 出題のねらい

出題のねらい 定期テストに移すときの観点マップ

01と同じ譲歩→転換→主張→提案の型ですが、譲歩が長く、しかもいったん認めた内容がそのまま主張の材料に化けるのがこの英文の特徴です（他人の選択は情報だ→全員がそうすると情報が消える）。「筆者は行列を否定している」と読んだ生徒は、大問1の(1)で必ず落ちます。ここが取れているかを先に見ると、要約の指導が一段速くなります。題材は生徒の日常（レビューの星・SNS）に直接触れるので、読んだあとにミニディベート（立場をくじで決める型）や意見文の設計図へそのまま渡せます。定期テストへ移すときは、大問1を思考・判断・表現、大問2を知識・技能に割ると1つの英文で観点が割れます。

型	観点	テストでの使い方
段落の働き	思考・判断・表現	論の展開の読解。譲歩が長い英文なので、否定と譲歩の見分けをここで測る
転換点の特定	思考・判断・表現	譲歩から主張への折り返しを1文で指させるか。要約指導の入口
内容一致／下線部和訳	知識・技能	基礎・標準は選択、発展は和訳。抽象名詞と関係詞の精度をここで測る
内容説明（記述）	思考・判断・表現	本文の抽象語を自分のことばに置き換えられるか。部分点の刻みつき
要約（20語）	思考・判断・表現	発展版のみ。譲歩・主張・結びの3要素で採点する（刻みは裏面）

大問1は3版とも同じ問いです（段落が論の中でどう働いているか）。内容が取れているかではなく、論の運びが見えているかを測ります。

3つの版の使い分け

同じ英文の骨格（段落構成・論の運び）を保ったまま、語数・語彙・答え方を上げてあります（基礎300語=選んで答える＋日本語20字／標準380語=選択肢が英語＋日本語40字×2／発展450語=下線部和訳2・内容説明80字・英語20語要約の全問記述）。①クラスの帯に合わせて選ぶ ②同じクラス内で配り分ける ③基礎→標準→発展と学期をまたいで同じ英文に戻る—の3通りが使えます。③は「同じ話がどこまで読めるようになったか」を生徒自身が測れるので、学期末・学年末の振り返りに向きます。なお大問2以降は正解の記号を版ごとにずらしてあります（配り分けのときの写し合い対策）。大問1だけは3版とも同じ問い・同じ記号です—ここは測る力をそろえるための共通の骨格なので、あえて変えていません。